

「ドパミントランスポーターシンチグラフィを用いた多系統萎縮症における線条体病変の縦断的及び横断的評価」 臨床研究へのご協力をお願い

多系統萎縮症(MSA)はわが国の特定疾患に指定されている神経難病の一つで、パーキンソン症状、小脳症状、自律神経症状を呈する進行性の疾患です。MSA のなかでも MSA-C は小脳症候が前景に立つタイプですが、徐々にパーキンソン症状の合併が明らかとなり、MRI でも脳の被殻という部位に異常が出現することはすでに広く知られていますが、その変性過程を知ることはこれまでは困難でした。近年ドパミントランスポーターシンチグラフィがわが国でも利用可能となり、パーキンソン症状を呈する神経変性疾患に保険適応となり当院でも多数の検査を行っています。MSA-C における被殻の病変の出現時期、進行の速さ、拡がり方をドパミントランスポーターシンチグラフィを用いて経時的に調査し、MSA-P と比較することによって進行様式の一部を明らかにすることを目的に、本調査研究を行います。

調査項目は、患者さんの年齢、性、発症年齢、初発症状、自覚的臨床症状、他覚的臨床所見（血圧、脈拍、UMSARS などの評価値）、MRI 画像所見、RI 検査所見、治療方法（内服薬の種類と量など）、その他の付随する臨床および検査所見。

本研究は日常診療で得られた臨床データを集計する研究であり、これにより患者さんに新たな検査や費用の負担が生じることはありません。また、研究に扱う情報は個人情報情報を切り離して、個人が特定されない形で厳重に取り扱います。皆さんの貴重な臨床データを使用させて頂くことにご理解とご協力をお願いいたします。

本研究に関する研究計画書および研究の方法に関する資料を入手または閲覧されたい場合、もしくはご自身のデータを研究に使わないでほしいと希望されている方、またこの研究に関して質問、相談されたい方は、下記の連絡先までご連絡ください。

連絡先：〒465-8620 愛知県名古屋市名東区梅森坂五丁目 101 番地

国立病院機構 東名古屋病院 神経内科

研究責任者 神経内科 榊原聡子

☎ 052-801-1151 (代表)